

北大交流プラザ「エルムの森」



大学に関する資料閲覧や大学オリジナルグッズなどを販売 (5/23～11/19までは無休で開放)

古河記念講堂



明治42年建築。当初は林学教室として利用されていた。道内初のフランス・ルネッサンス様式建築

クラーク像



大正15年、創基50周年を記念して建立。昭和23年再建。ポプラ並木がある北西の方角を見つめる胸像

中央ローン・サクシュコトニ川



平成15年に再生、開通した清流。しばし時間を忘れてしまいそうな、ゆったりとした流れ

明治九（一八七六）年、札幌農学校として開校した北海道大学。以来百三十年、北海道の教育と文化発展の象徴として親しまれています。今回は、その広大なキャンパスを散策しながら、魅力を伝えます。

### 伝統と自然の散策路

**大**学正門をくぐり抜けると目の前に広がる約一万二千㎡の緑地。芝生に座り、のんびりと読書や会話を楽しむ人たち。「中央ローン」と呼ばれるこの場所は、なだらかな起伏と体を包み込むような緑が訪れる人の疲れを癒します。この緑の芝生をゆるやかな蛇行を描きながら静かに流れる「サクシュコトニ川」。「サクシュ」とは「浜の方を通る」の意味で、この場合の浜は豊平川を指し、「コトニ」とは「くぼ地」のこと。意訳すると「くぼ地を流れる川のうち、豊平川に最も近い川」。かつては、サケが遡上してきたといわれるこの川は、一九五一（昭和二十六）年頃、水量が減り始め、やがて枯れてしまいました。そこで、同大では創基百二十五周年記念事業の一環として、市と連携して再生事業を行い、平成十五年十二月、川は見事に全長約二・一kmの清流として生まれ変わり、訪れる人に安らぎを与えています。

**中**央ローンの北西の端に位置する「クラーク像」。そのすぐそばに緑色の屋根で白い壁の建物が目に入ります。一九〇一（明治三十四）年建築の「旧札幌農学校昆虫学及養蚕学教室」です。現在のキャンパスに移転した時に建てられた校舎の中では現存する最古のもので、平成十二年には国の登録有形文化財に選定されています。同大では、この建物を平成十五年五月に改修し、「北大交流プラザ『エルムの森』」としてオープンさせました。現在、大学に関する図書や資料などがそろえられ、建物の前庭にはテーブルとイスが備えてあるなど、キャンパスを訪れる市民や観光客などに大学を理解してもらうとともに、散策の休憩場所としても利用されています。

**黒**百合。かつて、同大構内に多数自生していたこの百合は、大学が拡充していく中で徐々に姿を消し、昭和初期までに完全に消滅したとされています。その黒百合の群生地を復元しようという試みが行われている場所が、北大のシンボルといわれる「ポプラ並木」に隣接する「花木園」。こ

## 歴史と文化のウォーキング

北 18 条駅

### 地下鉄南北線

北 12 条駅

さっぽろ駅



「北区歴史と文化の八十八選～文学と学問の道」の紹介（北海道大学構内のコースのみ掲載）

※「北区歴史と文化の八十八選」とは、歴史的建造物や文化遺産の中から選定された区内88カ所です